

あいち防災通信

第12号

●発行●
愛知県・あいち防災
協働社会推進協議会

家具の固定をしていますか？ ひと手間が命を守ります！

写真巻 出典：神戸市『1.17震災写真アーカイブ』
写真巻 出典：一般財団法人消防科学総合センター『災害写真データベース』

家具等の転倒による負傷

平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災は、震度7（マグニチュード7.3）を記録しました。

この地震による死者は6,400名余り、負傷者は43,000名余りでした。建物の中で負傷した人については、そのうちの約半数（47%）が家具等の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。これにガラスの飛散によって負傷した人（29%）を加えると、実に約4分の3の人たちが家具やガラスで被害を受けたことになります。

こうした家具等の転倒・落下は、避難の際に様々な危険をもたらします（倒れた家具につまずいて転ぶこと、落下して割れた食器とガラスでけがをすることなど）。

家具等の転倒・落下防止対策は、高い減災効果が期待できて、身近で比較的簡単にできる取り組みです。2ページと3ページの「自宅における家具等の固定方法」を参考にして、家具等をしっかりと固定し、ガラスの飛散防止対策を実施しましょう。

家具固定相談窓口を設置しています！

平成27年9月1日（火）に家具固定に関する相談窓口を愛知県防災局内に設置しました。県民の皆様からの家具固定に関する相談や、家具固定推進員の派遣依頼の受付などを行っており、日を追うごとに相談件数も増える中、主に家具固定推進員の派遣依頼が多くを占めています。

家具固定相談窓口 Tel 052-954-6700

家具の固定について聞いてみました！

家具の固定について、平成27年度愛知県家具固定推進員研修の講師を担当され、自らも家具固定推進員として登録いただいている一般社団法人わがやネットの児玉道子代表理事に聞いてみました。

Q1. まず、わがやネットはどのような団体か教えてください。

A1. わがやネットは、誰もが安心して暮らせる住環境整備を支援することを基本理念にしています。家具固定の活動「かぐてんぼう隊」もその一環です。

Q2. 家具固定の活動をはじめたきっかけは？

A2. 寝たきりの母と同居している半身麻痺の高齢者からの依頼で、バリアフリー工事をしていた時、阪神・淡路大震災の映像がテレビで流れました。それを見ていた依頼者の「わしらは家具の下敷きになって死ぬのか！」の一言がきっかけになりました。

Q3. 「かぐてんぼう隊」の活動を教えてください。

A3. 平成17年、名古屋市の中川区で活動を開始しました。29軒の高齢者宅を学生や民生委員さんたちと回り、「これで安心して眠れる」と喜ばれた事が印象に残っています。同年、愛知県の「持続的防災まちづくり企画提案事業」に採択され、社会人部隊の養成研修を行いました。その後、シニアの方々が中心となって、守山区では社会福祉協議会の委託事業として、中村区と緑区では町内会と連携して耐震留具の取付けや飛散防止フィルム貼りの活動をしました。

Q4. 今後の活動予定は？

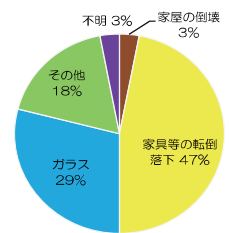
A4. 毎月1回、「家具等転倒防止対策・推進連絡会、技術研究会」で、地域の防災グループの活動紹介や情報交換を行っています。平成27年には、ボランティア向けに家具固定の手順と方法を簡単にまとめた「かぐてんぼう隊養成テキスト」を出版しましたので、活用していきたいと思っています。

一最後に一言。

家具の固定は地域防災活動のきっかけになります。さらに、この活動が発展して独居高齢者などの地域の見守り支援につながればと考えています。

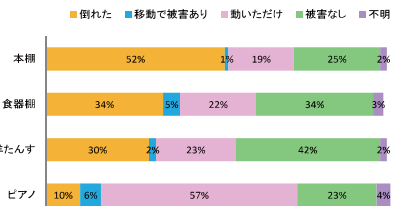
負傷原因の7割が家具とガラスによるもの！

阪神・淡路大震災における内部被害による怪我の原因



日本建築学会「阪神淡路大震災住宅内部被害調査報告書」より

阪神・淡路大震災における主な家具の被害状況



日本建築学会「阪神淡路大震災住宅内部被害調査報告書」より



一般社団法人わがやネット
児玉道子 代表理事



家具固定講座の様子



技術研究会の様子